

## 童謡のピアノ伴奏簡易化についての試み

千田 耕太郎\*

### Attempt to simplify the piano accompaniment of Children's Songs

Kotaro Senda

童謡のピアノ伴奏を簡易化するにあたり、バイエル教則本終了程度の演奏技術の者にとっては、楽譜の情報量と複雑さが増加すると演奏難度も高まり、情報量と複雑さを減じる手立てを講じることで、演奏難度が下がると仮定した。そして、実際に数曲の子ども之歌を、楽譜の情報量減と複雑さ減という指針のもと、簡易楽譜の作成に取り組んだ。これは、その研究の報告である。

**Key words:** 童謡 弾き歌い ピアノ 簡易伴奏 編曲

#### 1. はじめに

前稿<sup>1)</sup>では、本学における童謡ピアノ伴奏簡易化の取り組みに着目し、原曲楽譜と簡易化された楽譜を比較し、どのような手立てを講じることでピアノ伴奏の簡易化がなされているのかを探った。次に実際にピアノ伴奏を簡易化する作業を通して、更なる簡易化の方策について考察し、ピアノ伴奏簡易化の手立てについて以下のように纏めた。

- 「・簡易化はバイエル終了程度の演奏力を対象とする。
- ・歌の旋律は必ず弾く。
- ・右手の難度が高い部分は、極力左手を単純化する。
- ・左手の伴奏は可能な限り跳躍を1オクターヴ以内に留める。
- ・右手と左手が同時にポジション移動することを極力避ける。
- ・同じように指が潜ったり跨いだりすることも左右同時に起きることを避ける。
- ・和音は右手、左手合わせて3音ないし4音に留める。
- ・和音の進行から印象的な音の流れを読み取って単音を抽出し左手旋律とする。」<sup>1)</sup>

本稿では、童謡ピアノの演奏難度に着目し、バイエル教則本終了程度の演奏力を目安に、童謡ピアノ伴奏を簡易化する作業を通して、演奏難度を減じるための手立てを明らかにしていきたい。

#### 2. ピアノを演奏するという行為について

ピアノの起源と変遷について芹澤(2001)は、1709年にイタリアのクリストフォリBartolomeo Cristofori(1655-1731)が考案したフォルテピアノが原型となり、300年に及ぶ発展の歴史の中で、楽器の演奏法や音楽の作曲法にまで影響を与えながら、現在の形に至ったことを述べている。<sup>2)</sup>

このように、現在のピアノは初期のころのものと比べるとかなりの進歩を遂げたが、基本的な構造である弦をハンマーで鳴らし響板で響かせるという仕組みに変わりはなく、奏者とのインターフェースとなる部分は、ピアノの前身であるパイプオルガン、チェンバロのころから変わらず、1オクターヴ当たり12個配置された鍵盤がそれにあたる。

奏者は指で鍵盤を押下することによってピアノを演奏するが、その行為は熟練を要し、体得するためには時間をかけて訓練を積む必要がある。しかし訓練によってある程度のピアノを操作する技術を体得したとしても、ただそれだけでは、そのレベルのピアノ演奏をマスターしたとは言えない。

\* 四條畷学園短期大学 保育学科

西洋で発展し日本に伝えられ、私たちが親しんでいる音楽は、楽譜という媒体を通して記録され他者に伝達される。ピアノを演奏するという行為には楽譜を読むという作業が伴うからである。

ピアノを練習する過程においては、五線上の音符の玉の位置から音高を読み取り、該当する鍵盤を押下し、音符の種類が意味する相対的な時間が過ぎるタイミングで鍵盤から指を離すという作業を楽曲が終了するまで繰り返し行う。つまり、楽譜を見て→脳で内容を理解し→脳から腕、指に指令を出して→正しく鍵盤を押下し離す。という一連の行為を、設定したテンポに従って滞りなく楽曲の終了するまで繰り返し遂行できることが、演奏の質は別としてとりあえずはピアノの楽曲を演奏できるようになった目安といえるのである。

### 3. 演奏難度とピアノ伴奏簡易化との関係

藤原（2018）は、保育士養成課程および幼稚園・小学校教員養成課程に在籍する学生のアンケートを分析し、音符を読むことへの躓き、読んだ音符に該当する鍵盤を探すことへの躓き、指や手のポジションが移動することへの躓き、打鍵離鍵がうまくいかないことに起因する躓きがあることを明らかにした。3) このような躓きに悩むピアノ経験が浅い者にとっては、楽曲のテンポが速くなるにつれ、出現する音符の数が多くなるにつれ、つまり一定時間内に処理する情報量が増大するにつれ演奏難度は増加すると考えられる。また複雑なリズムや異なるリズムを左右同時に奏すること、指を広げること、手のポジションが移動すること、親指が他の指をくぐる、あるいはまたぐことなど、手指腕の動きの複雑さが増すにつれ演奏難度は増加すると考えられる。

それらのことから、一定時間内に出現する音符の数を減らしたり、リズムを単純化したりするなど、楽曲の情報量を減じ、複雑さを減じる手立てを講じることが、ピアノ伴奏の簡易化につながると考えられるのである。

それではこれより、楽曲の演奏難度を減じる手立てを考察しながら、簡易伴奏楽譜を作成することを通して、ピアノ伴奏簡易化の方策について探っていく。

### 4. 童謡のピアノ伴奏簡易化を通して

ピアノ伴奏簡易化を行う楽曲については、NHK「おかあさんといっしょ」や「みんなのうた」で長

年愛唱されている曲を中心に選曲し、ピアノ伴奏と歌で構成されている楽譜を選び原曲楽譜とした。

はじめに原曲楽譜を譜例で示し、原曲の演奏難度についての分析と、簡易化の方策について考察し、その方策に基づいて作成した簡易伴奏楽譜を譜例で示した。

なお、文中での音名の表記はドイツ音名とし、[ ] で括って表した。

#### 4-1. 「はじめまして」

名村 宏作詞 福田和禾子作曲

[譜例 1 a] 原曲 4)

はじめまして

名村 宏 作詞  
福田和禾子 作曲

1 はじめまして  
2 はじめまして

○ ○ ○ くん はくしゅで こん にちは  
× × × ちゃん はくしゅで こん にちは

すくすく んらん ともちんしん ともちんしん しん できた  
のびのび ががが ともちんしん ともちんしん しん

できた しんしん

©1983 by Japan Broadcast Publishing Co., Ltd. (records)

原曲 [譜例 1 a] を見ると、前奏部は、左手パート右手パートとも 2 音以上の重音で始まり、2 小節目は左手パート右手パートとも八分音符の旋律で音が動き、前奏の最後はオクターヴの跳躍が両手に出現するなど、一定時間にこなさなければならない情報量が多く、ピアノ初心者にとっては複雑である。曲を通して左手に「四分音符+八分音符+八分音符」のリズムが出現し、そのリズムがこの曲を特徴づけているが、これが曲全体の難度を上げている。後奏は、右手が和音の連続で、両手同時にポジション移動する必要があるなど、難度が高い。

そこで、簡易伴奏〔譜例1b〕では、前奏部右手パートは最高音のみ、左手パートは最低音のみの単音とし、2小節目左手リズムは二分音符を使用して単純化し、左手のオクターヴの跳躍をやめることで、右手に集中しやすくした。曲を通して左手は基本的に四分音符のみの伴奏とし、単純化を図った。6小節目、左手の八分音符の連続のメロディーはオプションとした。後奏は、右手和音の演奏と、左手の跳躍を無くした。全体を通して楽譜の情報量減と単純化を図っている。

〔譜例1b〕 簡易伴奏

はじめまして

名村 宏 作詩  
福田 和子 作曲  
千田 耕太郎 編曲

*mf* *mp*

1.2.はじめまして ○○○くんちゃん

はくしゅでこんには すくすくるんるともだちちゃん  
のびのびがやがや

ともだちちゃんじゃんできちゃった

できちゃったじゃんちゃん

4-2. 「こんなこいるかな」<sup>5)</sup>

日暮真三作詞 渋谷 毅作曲

〔譜例2a〕 原曲

こんなこいるかな

Medium Bounce Tempo (楽しそうに、はずんで)

日暮 真三作詞  
渋谷 毅作曲

*mf*

31

きつとね きつとね きつとおおきわき

そんななんのこ そっくりさんはどんなこ そんななんのこ

Bb F A G7 C7sus4C7 C7 F C7 F

ともだちたくさんいるんだもん こんなここんなこ

© Copyright 1986 by JAPAN BROADCAST PUBLISHING CO., LTD.

C7 F G7 C7 F F Eb Bb D Bbm Db

こんなこいるかな ドキドキのアイドル

F C Dm3 G7 C7 F Cm7 F7

いつもみんなのめをまわす 1.いたずらには  
2.よわむしは

Bbmaj7 Bb6 Cm7 F7 Bbmaj7 Bb6

シヨク やさしさにハクシユ  
ダツ コ わがまはガソ

Dm7 G7 C Ebdim Dm7 G7 Gm7 C7

おすれんぼにキッス さあなかくあそぼろ  
くいしんぼはおごり さあなかくあそぼろ

C7 F C7 F C7 F G7 C7 F F Eb Bb D Bbm Db

ずつとね ずつとね ずつとおもたら ドキドキのアイドル  
ずつとね ずつとね ずつとおもたら ドキドキのアイドル

F C Dm3 G7 C7 F F F Eb Bb D Bbm Db

きみがいるから おもしろい  
きみがいるから

F C Dm G7 C7 F G7 C7 F C7 F C7 F

おもしろい こんなこあんなこ

C7 F G7 C7 F F Eb Bb D Bbm Db F C F

そんななんのこ そっくりさんはどんなこ そんななんのこ  
そんななんのこ そっくりさんはどんなこ そんななんのこ

歌/原曲 日暮真三, 神崎 ゆう子

原曲〔譜例 2 a〕を見ると、両手とも分散和音や重音が多い。また〔複付点四分音符+十六分音符〕のリズムが随所に使用され、この曲の持つ弾んだ曲想を表現しているのだが、そのことが反面この曲の難度が高くなることにつながっている。

簡易伴奏〔譜例 2 b〕では、右手パートを歌の旋律とすることで重音を避け、左手パートの〔複付点四分音符+十六分音符〕のリズムは二分音符に置き換え単純化することで、右手パートの演奏に集中できるようにした。前奏と間奏の右手パートに出てくる〔C、B〕の四分音符は、括弧で括った小音符で表記しオプションと位置付けることで、右手のポジション移動を避けることを可能とした。

〔譜例 2 b〕 簡易伴奏

こんなこいるかな

日暮真三 作詩  
渋谷毅 作曲  
千田耕太郎 編曲

こんなこ いるかな ドキドキの アイドル  
きつとね きつとね きつとおおきわび ともだちたくさん いるんだもん  
いつも みんなの めをまわす いたずらに ショック  
や さしきには ハクシュ わすれんぼろには キッス さあ  
おがままは ガン くいしんぼろは おダグゴ  
な かよくあそ ぼう ずつとね ずつとね ずつとおともだち  
ドキドキの アイドル きみがいるから おもしろい  
こんなこ あんなこ そんなこ なんのこ そっくりさん はほんのこ こんなこ なんとかなこ

4-3. 「ぞうさんのぼうし」6)

遠藤幸三作詞 中村弘明作曲

〔譜例 3 a〕 原曲

ぞうさんのぼうし

遠藤 幸三 作詞  
中村 弘明 作曲

Allegro moderato (やさしく、話しかけるように)

1. ぞうさんが わすれてい た おおきな おおきな  
2. ぞうさんが わすれてい た おおきな おおきな  
3. ぞうさんが わすれてい た おおきな おおきな

ぼうし こねがはいて ニサン に ひきはいて  
ぼうし こぶたがはいて ズン に ひきはいて  
ぼうし こだぬきはいて ボン に ひきはいて

ニサン ニサン さんびきよん ひき ニサン ニサン こひきはいて  
ズン ズン さんびきよん ひき ズン ズン ひきはいて  
ボン ボン さんびきよん ひき ボン ボン こひきはいて

ニサン ニサン ニサン ニサン ニサン ニサン キッス!  
ズン ズン ズン ズン ズン ズン キッス!  
ボン ボン ボン ボン ボン ボン キッス!

ぞうさんが

歌/坂田 おさむ、神崎 ゆう子

原曲〔譜例3a〕の前奏、間奏部分は右手パートの音高が高いため楽譜上では加線が多く読譜しづらい。左手パートは和音の連続で情報量が多く、読譜の面でも演奏の面でも難度が高い。曲全体を通して左手パートは二分音符あるいは全音符で構成されており、右手パートを歌の旋律とすると難度はそれほど高くない。ただ、左手パートの音が1オクターヴを超える範囲に分布しており、指を開くなど演奏に気を配る必要がある。

簡易伴奏〔譜例3b〕では、前奏部分、右手パートは原曲と同じ音であるが、オクターヴ記号を使用することで読譜についての簡易化を図った。左手パートは順次最低音を拾っていったが、4小節目の1拍目は最低音が〔Fis〕であり、右手パートのメロディーの音と同音となるため、和音のもう一方の音〔D〕を拾うこととした。

歌のメロディーがシンプルであるため、右手を歌の旋律とし、原曲左手の二分音符中心のメロディーと合わせることで、十分に簡易化が図られている。左手については、加えて7小節目1拍目の〔G〕と8小節目1拍目の〔A〕の音を1オクターヴ低くすることで、手の開きを少なくし、更なる簡易化につなげた。

また、間奏直前の小節の1拍目を左右とも四分音符にして休符を長くすることで、間奏冒頭の両手のポジション移動をやり易くした。

〔譜例3b〕 簡易伴奏

遠藤 幸三 作詩  
中村 弘明 作曲  
手田 耕太郎 編

4-4. 「ほくのこもりうた」7)  
井出隆夫作詞 福田和禾子作曲

〔譜例4a〕 原曲

ほくのこもりうた

井出 隆夫作詞  
福田 和禾子 作曲

Moderato (やさしく 語りかけるように)

原曲〔譜例4a〕の前奏は、右手パートの2小節目2拍目の十六分音符の連続は、1拍の中に4つの音を処理する必要があり演奏難度が高い。左手パートは、和音のアルペジオの連続で、これも読譜面でも演奏面でも情報量が多く演奏難度が高い。歌唱部分は、左手パートの二分音符に右手パートの分散和音がちりばめられており、シンプルな構成となっている。間奏は、右手パートの十六分音符を含む旋律が前奏と同じ理由で演奏難度が高い。

簡易伴奏〔譜例4b〕では、前奏部分は、右手パート十六分音符のメロディーを原曲の音を生かした八分音符のメロディーとすることで情報量を減らし、読譜と運指の複雑さを減じた。

左手は、二分音符の単音とすることで、右手パートの演奏に集中できるようにした。歌唱部分は、右手パートを歌のメロディーとするだけで、難度は下がる。間奏部分も、八分音符のメロディーとし、読譜と演奏の難度を下げた。この楽曲は、変ホ長調で書かれており、調号としてフラットが3つで、バイエル終了程度の演奏力では、読譜しづらいのだが、半音下げてニ長調にすると運指が難しくなり、1音上げてヘ長調にすると、音域が高くなって歌いづらくなるので、あえて原調のままとした。

〔譜例4b〕簡易伴奏

ぼくのこもりうた

Moderato(やさしく 語りかけるように)

*mp* *p dolce*

井出 隆夫 作詩  
堀田 和夫 作曲  
千田 耕太郎 編曲

おやすみぼくの おくちめ  
おやすみおめ またあした  
おやすみおくち またあした  
おやすみボク またあした

いろいろなみて つかれたね おやすみおめ またあした  
いっばいしゃべって つかれたね おやすみおくち またあした  
たくさんあそんで つかれたね おやすみボク またあした

トコラーム トコラーム わん ころ ぱい

わん ころ ぱい

D.S.

4-5. 「さよならマーチ」 8)  
井出隆夫作詞 越部信義作曲

〔譜例5a〕原曲

さよならマーチ

Tempo di marcia (明るく、元気に)

井出 隆夫 作詞  
堀田 和夫 作曲

C Bb Ab C C F Fdim G7

か えりた く な い

25 *f* *mf*

C F G7 F A9

か えりた く な い か えりた く な い け ど

Dm7 G7 C C Am F G7

さ よ な ら マー チ

© Copyright 1984 by Japan Broadcast Publishing Co., Ltd.

C G7 F G7 C

さ ら ば い ぱ い さ ら ば い ぱ い き に さ ら ぱ い

C G7 F G7 C

さ ら ば い ぱ い さ ら ば い ぱ い き に さ ら ぱ い

Cm F G7

そ ろ そ ろ も ん が し ま っ ち ゅ う ぼ っ ち ゅ う ぼ っ ち ゅ う ぼ っ ち ゅ う ぼ っ ち ゅ う  
そ ろ そ ろ も ん が し ま っ ち ゅ う ぼ っ ち ゅ う ぼ っ ち ゅ う ぼ っ ち ゅ う ぼ っ ち ゅ う

C G7 Fdim G C B7 Em

た "はい！ さよらはここまでっ！！" あしたのあしたに

F G7 C G7 F  
 またあそぼ ぼろ っこりわらってまたネー  
 G7 C Dm C C Dm C D# C D# C  
 やくそくマーチ - "じゃまたね バイバイ!"  
 f sf

歌/ 坂 みゆき、坂田 おさむ、瀬戸口 清文、軒付 兼太、横沢 啓子、中尾 隆聖

原曲 [譜例 5a] は、右手パートの刻々と変化する和音と、左手パートのシンコペーションを含んだ細かいリズムで構成されており、一定時間に処理しなければならない情報量が多くかつ複雑であるため、ソナチネ教則本程度の演奏力でも終始演奏することが難しい。

簡易伴奏 [5b] では、前奏、間奏、後奏の右手パートの和音をすべて最高音のみ抜き出して単音とし、情報量と複雑さを減じた。左手パートは、原曲のメロディーのラインを可能な限り踏襲したうえで、リズムを単純化し音を少なくすることで簡易化につなげた。

[譜例 5b] 簡易伴奏

さよならマーチ

井出 隆夫 作詩  
 建部 信義 作曲  
 千田 勝太郎 編曲

Tempo di marcia (明るく、元気に) *mf*

f  
 か えり た く な い  
 5  
 か えり た く な い か えり た く な い け ど  
 9  
 さ よ な ら マー チ  
 13  
 さ ら バイ バイ さ ら バイ いん き に さ ら バイ  
 17  
 さ ら バイ バイ さ ら バイ いん き に さ ら バイ  
 21  
 そろそろもんが しまっ ちやう ほーらつかまえた! 「さあもいちど」  
 25  
 「はい! きょうは ここまでっ!!」 あしたの あしたに

29  
 またあそぼろ っこりわらってまたネー  
 33  
 やくそくマーチ f sf

4-6. 「にじのむこうに」

坂田修作詞作曲

[譜例 6a] 原曲

1. にじのむこうに

坂田 修 作詞  
 池 毅 作曲  
 坂田 修 編曲

♩ = 139

A7sus4 A7 A7sus4 A7  
 あ め が あ が っ た よ お ひ さ ま が で て き た よ あ  
 Em7 A7 D D/C# B7 B7/F# Em7 A7 D  
 お い そ ら の む こ う に は に じ が か が っ た よ  
 D F#m7 G D  
 さ が し に ゆ こ う ほ く ら の ゆ め と  
 Em7 F#7 Bm7 Bm7/A Bm7/G# Bm7/F# Em7 A7sus4 A7  
 に じ の む こ う に な に が あ る ん だ ろ う て  
 D F#m7 G D  
 と て と つ な げ ば いん き が で る の さ  
 Em7 F#7 Bm7 Bm7/A Bm7/G# Bm7/F# Em7 A7sus4 A7  
 ほ う み た い だ な ど こ で も ゆ け る さ

© 1996 Japan Broadcast Publishing Co., Ltd.

GM7<sup>11b</sup> F<sup>7</sup>m7  
このゆびにーとまれ (おーい)

GM7<sup>11b</sup> E7 A7sus4 A7  
しゅっぱつだぞーあつまれー (おーい)

D F<sup>7</sup>m7 G F<sup>7</sup>m7  
つないだてとてに つたわるよあつたかい  
あめがあがったよ おひさまがでてきたよあ

Em7 A7 D D/C# B7 B7/F# Em7 A7  
ポッカポカのおひさまとおなじにおいがするー  
おいそらのむこうにほにじがかかったよ

D D/C# B7 B7/F# Em7 A7 D Dadd9  
ーにじがかかったよー

原曲 [譜例 6 a] の右手パートは、全音符や二分音符の 3 和音または 4 和音を基調に、チューブラーベル（シンフォニックチャイム）やハンドベルを連想させる和音が連続する旋律で構成されている。左手パートは、[付点四分音符+八分音符+四分音符+四分音符] のリズムを基本とした、ベースギターをイメージさせる旋律で構成されている。右手パートの 3 和音や 4 和音の連続と細かなリズムの左手パートの組み合わせは情報量が多く、演奏難度がかなり高い。また、原曲は二長調で書かれており運指の自由度が少なく限られてくるので、これも演奏難度を上げる要因となっている。

簡易伴奏 [譜例 6 b] では、原曲の音域がかなり高いので、保育で扱いやすくすることと演奏難度を下げることを目的に 1 音下げてハ長調に移調した。右手パートは歌の旋律を充てたが、リズムカルでシンコペーションも多く、演奏難度が高いので、左手パートは可能な限り単純化した。ただ、10 小節目、17~18 小節目など、印象的なコード進行やベースラインの部分は、その音の動きを尊重した。

[譜例 6 b] 簡易楽譜

にじのむこうに

坂田 修 作詞・作曲  
千田 耕太郎 編曲

あめがあがったよ おひさまがでてきたよあ

おいそらのむこうにはにじがかかったよー

さがしにゆこうぼくらのゆめを

にじのむこうになにがあるんだらうて

とてをつなげばげんきがでるのさーま

ほうみたいだねどこでもゆけるさー

このゆびにーとまれ (おーい!)

しゅっぱつだぞーあつまれー (おーい!)

つないだてとてに つたわるよあつたかい

ポッカポカのおひさまとおなじにおいがするー

にじがかかったよー

15 Coda



## 5. おわりに

前稿に引き続き、童謡ピアノ伴奏の簡易化について考察を行った。本研究では、楽譜の情報量と複雑さを減じることがピアノの演奏難度を下げる。という仮説を立て、一つ一つの楽曲について難度の高い要因を洗い出し、減じる手立てを講じることで童謡ピアノ伴奏の簡易化に取り組んだ。

6曲の楽曲の簡易化に取り組むことを通して、情報量と複雑さを減じるという簡易化の指針に手ごたえは感じた。ただ、学生やピアノ経験が浅い保育者に実際に弾いてもらい、その有効性を確かめるところまでは至っていない。また、ピアノ経験の浅い者が自ら伴奏の簡易化を行うためには、コードを使った伴奏付けや、定型のパターン化された伴奏形を当てはめることの方が、近道なのかもしれない。しかし、楽譜を熟読し、時間をかけて分析することで見えなかった部分が見えてくることもあり、丁寧に楽譜を読み解き、1曲1曲それぞれの曲の特徴を生かし簡易化に取り組むことも、私たち音楽家としては正しいやり方のようにも感じる。

今後は、この童謡ピアノ伴奏簡易化の取り組みの有効性を確かめたい。そして本研究が演奏難度の高い楽譜を前に、二の足を踏んでいる保育者や保育を目指す学生の一助となることを願っている。

### 【註】

- 1) 千田耕太郎、森麻希子、(2018)、童謡のピアノ伴奏についての一考察：～原曲の特徴を損なわずに簡易化する方策を探る～、四條畷学園短期大学紀要、51号、pp.45-53
- 2) 芹澤尚子、(2001)、チェンバロ音楽からピアノ音楽へ、日本音響学会誌、57巻、11号、p.712
- 3) 藤原一子、(2018)、保育士養成・教員養成課程に在籍する学生がピアノ学習において難しいと感じている項目の分析(1) —ピアノ演奏技術〔音高〕に着目して—、東海学園大学教育研究紀要、第2巻、pp.39-49
- 4) 日本放送協会編、NHKこどものうた、第15集、p.28、日本放送出版協会
- 5) 松山祐士編著、(1989)、ピアノでうたうおかあさんといっしょヒット曲集、pp.102-104、ドレミ楽譜出版社
- 6) 松山祐士編著、(1989)、ピアノでうたうおかあさんといっしょヒット曲集、pp.118-119、ドレ

ミ楽譜出版社

- 7) 松山祐士編著、(1989)、ピアノでうたうおかあさんといっしょヒット曲集、pp.36-37、ドレミ楽譜出版社
- 8) 松山祐士編著、(1989)、ピアノでうたうおかあさんといっしょヒット曲集、pp.82-84、ドレミ楽譜出版社
- 9) 日本放送協会編、NHKこどものうた、第25集、pp.4-6、日本放送出版協会

### 【参考文献】

- 厚生労働省 編、(2017)、「保育所保育指針」、フレーベル館
- 文部科学省 編、(2017)、「幼稚園教育要領」、フレーベル館
- 内閣府 文部科学省厚生労働省 編、(2017)、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」、フレーベル館
- 吉川 茂著、(2001)、チェンバロからピアノへ：鍵盤楽器の進化(小特集技術が変えた音楽の歴史)、日本音響学会誌、57巻、11号、pp.704-711
- 東 保編著、(1981)、やさしい伴奏によるこどものうた(1)、全音楽譜出版社
- 東 保著、(1982)、やさしくひける幼児のうた、チャイルド本社
- 東 保編著、(1985)、やさしい伴奏によるこどものうた(2)、全音楽譜出版社
- 日本放送協会編、NHK、こどものうた、日本放送出版協会
- 日本放送協会編、NHK、みんなのうた、日本放送出版協会
- 松山祐士編著、(1989)、ピアノでうたうおかあさんといっしょヒット曲集、ドレミ楽譜出版社
- 片岡博久発行、(1996)、うたおう!!おかあさんといっしょ、kmp

—2020.11.2受稿、2020.11.3受理—